

六甲カトリック教会 教会報



ほんとうの平和とは

8月6日から15日までは平和旬間です。毎年この期間、教会では「平和」を考えるイベントが開かれていました。昨年はコロナの影響で、講演会など人の集まる企画は出来ず、「分断を越え、ともにあるという心」というオリジナルの冊子を作成し、各自が静かに平和の祈りを捧げました。今年もコロナはまだ終息せず、同様のかたちで平和を祈ることになります。



(c)Vatican Media

平和[peace]。[pacific]も平和な、という意味の形容詞ですが、どちらもラテン語の pacem(パーチェム 平和)を語源としています。バッハの口短調ミサ曲の最終曲 dona nobis pacem では「われらに平和を与えたまえ」と深遠な平和への祈りが高らかに歌われます。

さて、第二次世界大戦が終わって76年が経ちました。過去の教訓を経ても、なお世界では朝鮮半島、ベトナム、パレスチナなど、国際紛争や内戦を問わず、地球上のどこかで抗争が続き、戦火が絶えることがありません。核の脅威もおさまらず、大国の覇権主義、米中の確執、と世界は不安定な状況にあります。さらに地球温暖化、自然災害の多発、環境破壊、そこへ昨年からの新型コロナウイルスのまん延、こんな中でもオリンピックやパラリンピックが開催されるのは、東の間の平和、「疑似なる平和」に私たちがひたっているからなのかも知れません。ほんとうの平和とは単に戦争がないことではなく、人類がなんの憂いもなく幸福な生活を日々送れる、ということです。平和旬間では、教皇さまの写真を掲げ、ご一緒にいま一度、「ほんとうの平和」とは何かを深く考えてみたいと思います。

オリンピックが始まりました。開幕間際になって、オリンピックの精神に悖る無神経な問題が発生、人類の崇高な理想を掲げた祭典は、コロナのあるなしにかかわらず、つまずきながら進行しそうです。選手や大会関係者にも感染者があらわれ、「安全安心の五輪」とはほど遠い状況です。パンデミックのときは五輪は「ふつうはやらない」と警告を発せられながらも、混乱状態にある中で、どっちつかずの無観客で強行したことは「ほんとうの平和」を理解していないからではないでしょうか。

(編集部)

2021年度 第1回小教区評議会議事録（要約）

7月11日(日)13:00～14:30 第1・第2会議室

出席者 アルフレド主任司祭、中村神父、正副議長、書記、財務部、三日月会、婦人会・教会学校・地区会・典礼部・社会活動部・広報部・施設管理部各コーディネータ

1、主任司祭より 7月3日の評議会準備会で、今年度の納涼の夕べ(8月21日)及びチャリティーバザー(11月14日)は中止と決定した。

2、協議事項

(1) 今後7月～1月に予定されている教会行事について

- ① 平和旬間イベント【8月7日(土)】昨年同様冊子の配布、各自の祈りとする。
- ② 聖母被昇天ミサ【8月15日(日)】ミサの回数は増やさずに現状のまま。
- ③ 宣教部講演会【9月18日(土)】昨年同様オンラインでの開催を講師と折衝中。
ミサ後にモニターで観ることも考慮。
- ④ 社会活動部学習会【9月19日(日)】宣教部講演会との日程調整もあり、オンライン、録画などの検討を経て、講師と折衝の結果、対面開催が可能となるまで延期と決定。
- ⑤ 秋の黙想会【10月9日(土)】小教区の信徒のみで、指導も当教会の神父さまで、飲食を避け、午後から開催して当日の夕ミサにつなぐことを検討。
- ⑥ 祈りと音楽の集い【10月3日(日)】整理券を配布して当教会の典礼奉仕者のみで行う。
- ⑦ 七五三祝福式【11月21日(日)】10時のミサ中でお祝い、お祝い会はなし。
- ⑧ クリスマス音楽の集い【12月19日(日)】中止
- ⑨ クリスマスミサ【12月24日(金)】ミサの時間及び回数はその時期の感染状況による。
→10月10日の小教区評議会で決定。
- ⑩ 新成人祝福式と教会新年会【1月9日(日)】パーティーは中止。
→それに代わる「お祝い」を10月10日の評議会で決定。

(2) 勉強会、その他の会合など

- ① 社会活動部 ともしび会、炊き出しなどの台所使用について、
自宅(ともしび会)あるいは中央教会の台所(炊き出し)を借用する。
当教会の台所はいましばらく使用しない。
- ② イグナチオ喫茶 中止。
- ③ 入門、養成、聖書講座 再開。
- ④ 手芸の会 しばらく休止 再開は9月を目途に。
- ⑤ A.A 緊急事態宣言解除後に再開した。
- ⑥ 堅信式 延期になっているが、勉強会を夏休み中に(日程は未定)。

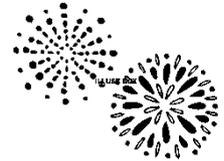
3、その他

財務報告会の開催 主任司祭と財務部で検討。

地区評議会報告 7月4日に規約改正、簡素化し小教区評議会に重点、地区評議会はサポート的役割になる。

教会学校 7月3日から開始(キャンプは中止)

次回小教区評議会は10月10日(日)13:00～ 第1第2会議室





みんなの広場

神さまの愛された人間

先日タクシーに乗った時のことです。行き先を告げると女性らしい声で返事がありました。『近頃若い女性の運転手さんが増えたな』と思って目の前に貼ってあるプロフィールを見ると、男性の名前でした。それから空気が変わったのか、「坂がきついし、こうした雨や見えない夜はタクシーが助かります」。「うちは切り返すとき不便でしょう」とか話しかけましたが、独り言のような形になってしまいました。

また別の日、病院の喫茶室で髪の長い背の高い人を見かけました。まじまじと見つめる失礼はしません。が、目が不自由な故に全体の雰囲気を感じ取る習性がある私は、ごつごつとした男性に見受けられたのです。

実はその数日前に「3年前までは男性でした」という人に偶然出会わせました。私は自身が地方新聞の女性特集面のライターであり、そのコンセプトを告げ、話を伺いました。「精神の5%は男性で、95%は女性だった」。「相手の納得のために、男性の範疇に入らざるを得ず、内面を押し殺す毎日だった」と。しかも幼い時に両親を亡くし、苦労を重ねたであろうその人は、前向きで明るく美しい人でした。

自分自身は「そうしたものだ」と認識している、と話してくれました。家風呂が故障し、公衆浴場に入った時のことです。膨らんでいる胸を隠すように隅でそっと洗っていると、浴場の人にひどく怒られたと言います。そばにいた老人が通報したようです。女性として生きようになった現在でも、外では決して風呂に入らないということです。

調べて分かったのですが、私が会った人たちは、クラインフェルター症候群のようです。男児の約500人に1人の割合で、性染色体のXが1本以上多い先天異常。長じてから身体的な特徴が女性化してくることが多いとか。

生まれついてマイナーな性や心を持つ人たちに対し、理解することは難しいですが、ありのままに受け入れたいものです。神はどんな人間をも愛される。弱い人たちの中に神はおられる。私たち信徒はそう思って毎日を生きています。今年の平和旬間のテーマでもある「誰も置き去りにしない世界へ」に向けて歩むよう努めたいと、改めて思います。

(マルガリタ マリア 岩田 聖代)

祭服の色が示すのは？

典礼暦年は、その時期、特徴を示すために固有の色を持っており、祭服・ストラ(首から描ける帯)などに用いられています。



：神の栄光・清らかさ・喜びを意味します
復活節と降誕節、受難の日以外の祭日に用いられます。



赤：火・愛・殉教を示すシンボルとされています
受難の主日、聖金曜日、聖霊降臨の主日など。



緑：希望・歩みの堅実さ・忍耐深く聞くという意味があります。
年間の典礼に用いられています。



紫：償い・回心・節制・待つこと・死者のための贖罪と祈りを表します。
待降節、四旬節、死者のための典礼にも用いられます。

その他に  **黒**(死・悲しみ)、 **バラ色**(喜び)、 **金色**(王位・尊厳)、 **ブルー**(天)もあります。



(Laudate キリスト教豆知識より)



太極拳

田中 雅子



太極拳を習い始めて約二十年ですが、仕事が忙しくて休んでいた時期もあり、のんびりマイペースで続けて今に至ります。

最初は日本で取り組む人の多い簡化太極拳を教わり、現在は陳式心意混元太極拳。伝統的な陳式の太極拳を高齢者や女性でも行いやすいように、在北京の武術家・馮志強老師が編成したものです。指導を受けていた先生が馮老師の直弟子でした。

「今ならどんなに下手でも連れて行ってやる」という先生の言葉に乗っかって、混元太極拳を始めて間もない頃に北京での交流大会に参加させていただきました。日本や韓国、アメリカ、カナダ、フランス、スペインからも同門の人々が集う大きなイベント。熟練の太極拳を多々目にして、どうすればあのようになれるのかと憧れました。馮老師と一緒に練習できる貴重な合宿も含め、訪中は三回。写真はその時のものです。

練習では、まず套路(とうろ:一連の動作の流れ)を覚えます。そして「気沈丹田」いわゆる丹田から動くこと、重心の移動など体の内側の感覚に意識を向けながら動くことを学びます。中国語で「放鬆(ふあんそん)」と言いますが、とにかく無駄な力を抜き、柔らかく全体がつながることを目指します。

が、本当にリラックスした状態でのびやかに動くのはなかなか難しく、つい力んだり、考え過ぎておかしい動きになったり…。日頃から肩に力が入りやすい私は「沈肩墜肘」肩を沈め肘を落とすことを特に注意しています。そのせいか、詩編に「力を捨てよ、知れ、わたしは神」(46・11)という言葉を見つけた時には、妙に嬉しく、心に響くものがありました。

先生が二年前に急逝してしばらく遠ざかっていますが、先達からの教えを大切に、もう一度しっかり取り組みたいと思っていますところ。



今月の聖人 8月

☆聖ラウレンツィオ

ラウレンツィオ(225～258)はローマの助祭殉教者です。教会の資産の管理に携わり、貧しい人々に施しをさずけたと言われます。ラウレンツィオの生きた時代はローマ帝国のキリスト教大迫害時代で、当時のローマ皇帝ヴァレリアヌスは教皇までも捕らえて処刑します。教皇の忠実な執事であったラウレンツィオは教皇の遺志を守り、貧しい人々、身体の不自由な人々への施しを断行します。ローマに反抗したラウレンツィオは鉄格子の上で焼かれるという残酷な刑で殉教します。ラウレンツィオの記念日は8月10日。ミラノの勅令によってローマがキリスト教を認めたのは殉教してわずか55年後の313年でした。画像は17世紀のスペインの画家フランシス・スルベランの描いた「聖ラウレンツィオ」です。



(詫洋一記)

◆ 荒れ野の旅 ◆

8月の初日は日曜日となり、私たちは猛暑のなかにも主日のミサ・主イエスの復活を心して祝う。真夏と言っても冷房装置が何処にでも設置され、暑さもしのぎ易くなった。しかし個人差がかなりあるようだ、私としては汗をかきながら熱いお茶を飲むのを好むが。先日生まれて初めて、日傘なるものを使ってみた。なぜか女性が使う物という固定観念があって今まで避けてきたが、頭を締め付ける夏帽子をかぶることに比べると、はるかに快適かつ効果的なので日傘の出番は大いに増えそうだ。

さてかなり以前から、荒れ野を旅するイスラエルの民の姿が毎朝のミサ朗読で読まれている。眩きボヤク民に、主なる神はマンナと肉を約束する。この後にイスラエルの民は、渴きを癒す水も求めることになる。モーセは民と主との板挟みとなって大いに苦しむ。しかし民は逆らいと文句の限りを尽くしながらも、次第に主なる神・ヤーウエの導きや選びを受け入れ応える事を学んでいく。荒れ野の旅は、主なる神との近さと親しさ、また遠さを体験し、眩きと逆らいを通して一つの民として鍛えられる道のりであり、また乳と蜜の流れる約束の地・真の自由に至る遥かな遠い多難な歩みである。現今のイスラエル共和国はパレスチナの大地を我が物顔に支配しているが、真の意味で約束の地に入りおおせたのか大いに疑問である。とにかくエジプト脱出・エクソダスこそは救い・解放の原体験である。それ以後、神の選びの成就是いつも旅のヨソオイを経て現実化するものとなった。こうしてイエスはナザレからエルサレムへと旅をした、「私は今日も明日も進み行かねばならない」と。使徒たちはイエスの復活の生き証人として、エルサレムから地の果てに至る福音宣教の旅に出かけ、今もってその途上に

あると云えよう。

多くの民族は当然ながら、遍歴・巡礼・遍路を信徒の大切な実践として高く評価してきた。ユダヤ教ではかつてエルサレムの神殿に詣でることが生涯の願いであった。イスラム教徒にとっては、メッカのカーバ神殿に参詣・ハッジとなる事が夢である。キリスト教では中世以来、サンチャゴ・デ・コンポステラを目指して世界各地から身の危険を冒してでも出かけることを喜びとした。仏教の国日本では多くの企てや由緒ある地がある。四国のお遍路、回峰行・熊野詣で・富士登山・お伊勢参りなどなど、各地で今も行われ尊ばれている。旅人として迷い倒れながらも人生行路を歩み、先行きが不明のまま心新たに今日の一步を踏み出す。道中に避け難く出くわし身にふりかかる出来事をそのまま受け入れることこそ、まさに修行であり、出会いと別れのすべてを巡り合わせ・ご縁として受け入れた。私の友人で四国遍路を三回もやった猛者がいた。空海上人と同行二人、たとい無縁仏となって朽ち果てようとも厭わず、時にはお接待を頂きありがた涙にくれることもあると語っていた。彼の体験談では何度でもやりたくなり、どうにも遍路を止められなくなるとか。

私は残念ながらもう八十八の札所を歩いて巡ることは、願っても努めても不可能であろう。しかし今も一つだけ心に期していることがある。巡礼ではないが、歩くことを決して止めない。人が歩くことを止めると或いは歩けなくなると、必ず早々に死ぬという事実を今まで多く経験してきた。どんなにゆっくりでも、足が痛くて疲れても、歩いていてさえいれば目的地に必ず到着するのだ。一生一步、一日一步。いつも旅人イエスと共に、歩み行きたいものだ。

合 掌

【 2021 年8月予定表 】

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
年間第 18 主日 カンボジア教会の日 献金					初金曜日7時10時 聖体顕示 平和旬間～15 ◎東灘北1	
8	9	10	11	12	13	14
年間第 19 主日	教会受付休み	聖ラウレンツィオ 助祭殉教者			◎東灘北2・芦屋	
15	16	17	18	19	20	21
聖母の被昇天 ◎日曜班11:30						
22	23	24	25	26	27	28
年間第 21 主日		聖バルトロマイ 使徒			◎灘南・神戸西	
29	30	31				
年間第 22 主日						

◎は掃除当番地区です。

【 8月主日ミサ予定表 】 ※ミサの日程については教会からの最新の情報にご注意ください

日	時	地区(グループ)	日	時	地区(グループ)
7月 31 日(土)	18 時	地区を問わず	8月 15 日(日)	10 時	第1グループ
8月 1 日(日)	7時半	地区を問わず	8月 15 日(日)	11 時半	第2グループ
8月 1 日(日)	10 時	第1グループ	8月 21 日(土)	18 時	地区を問わず
8月 1 日(日)	11 時半	第2グループ	8月 22 日(日)	7 時半	地区を問わず
8月 7 日(土)	18 時	地区を問わず	8月 22 日(日)	10 時	第2グループ
8月 8 日(日)	7 時半	地区を問わず	8月 22 日(日)	11 時半	第1グループ
8月 8 日(日)	10 時	第2グループ	8月 28 日(土)	18 時	地区を問わず
8月 8 日(日)	11 時半	第1グループ	8月 29 日(日)	7 時半	地区を問わず
8月 14 日(土)	18 時	地区を問わず	8月 29 日(日)	10 時	第1グループ
8月 15 日(日)	7 時半	地区を問わず	8月 29 日(日)	11 時半	第2グループ

<p>次回9月号の発行は、8月28日(土)です。</p> <p>原稿は毎月15日ごろまでに教会受付へ直接ご持参いただくか、FAX やメールでお願いいたします。皆様からの原稿をおまちしております。あわせてご意見もお寄せください。 (広報部)</p> <p style="text-align: center;">http://www.rokko-catholic.jp</p>	<p style="text-align: center;">六甲カトリック教会</p> <p>〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21</p> <p>電 話 078-851-2846</p> <p>F A X 078-851-9023</p> <p>E-メール renraku@rokko-catholic.jp</p> <p>発行責任者 アルフレド・セゴビア</p> <p>編 集 広 報 部</p>
--	--